

令和3年4月1日  
杉並区立松ノ木小学校  
校長 甚野 雄治

## 令和3年度 杉並区立松ノ木小学校経営方針

### 教育目標

やさしい子供	生命を尊重し、一人一人のかけがえのないいのちを大切にし、他を思いやるやさしい心を備えた子
考える子供	自分の力で粘り強く考え、正しく判断し、創意・工夫をし、自主的・自発的に行動する子
たくましい子供	心身ともに健康で活力に満ちたたくましい子

### 1 基本方針

<子供の笑顔のために>

私たちの取組はすべて「子供の笑顔」のためにあります。一人一人の子供が、納得できる学校生活が送れるよう、子供たちとしっかりと向き合っていきます。

本校では、子供たちの「主体性」を尊重した教育活動を推進します。言われて学習する、指示されて行動する子供ではなく「自分の考えを学習に生かす、自分で考えて行動する」子供を育てます。子供たちが自分自身で、よりよい方法や多様な方法を考え、自分で動いてこそ真の学力が身に付きます。それだけではありません。自ら考え行動することで達成感を得て、自己肯定感も高めることもできます。そうして得られた子供たちの笑顔を多くの場面で見られる学校にしていきます。自分の可能性を信じて物事に取り組み、自分を好きになれる子供、そういう松ノ木小の子に育てていきます。

また、新型コロナウイルスの感染は未だ留まるなどを知りません。教職員のみならず、保護者や地域の方、学校に関わる方全員で完全防止の取り組みを続けます。健康であるからこそ「笑顔」になれる。子供も大人もすべての人が健康でいられる感染症対策を継続して実施します。

### 目指す学校の姿

「自ら学ぶ児童を育てる」学校  
～Society5.0に向けて～

### 目指す児童の姿

自らが学ぶ意思をもち、自らの可能性を最大限に生かして学ぶ子供

自らが学ぶ意思をもち、自らの可能性を最大限に發揮し、よりよい未来の担い手として「関わり」と「実感」を伴った学びを続ける児童の育成を目指します。特に「主体的な学び」が求められる学習指導要領では、児童自らが学ぶ意思をもつことはとても重要です。本校の児童は、どういう方法で学習したらよいのか分からないと感じていたり、自己肯定感が低かったりする傾向があります。それらを乗り越えるためにも、自ら学ぶ意思をもつ児童を育成することが求められています。

## 2 指導の重点

学校だからこそできる「実感」と「関わり」を伴った学びを通して、「自ら学ぶ児童」を育成します。本校の特徴を最大限に生かした教育活動が展開できるようにするためにも、以下の2点を重点とします。

個別最適化された学びの実現  
児童が主体的に関わる学習活動の実現

## 3 重点を達成するための視点

重点を達成するために「子供」「教職員」「保護者・地域」の3つの視点で教育活動を進めます。子供と関わるすべての人が、当事者意識をもってその責任を果たしながら、子供たちと関わり、育てていきます。

子供が主体の学校づくり ~子供の笑顔はみんなの力の源~

学校運営の一番の基準は「子供たちのために」。安全・安心の学校づくりはもとより、確かな学力を保障します。関わりと実感を通して、主体的な学習態度を育てます。

3つの向上

- 学力向上
- 表現力向上
- 受容力向上

プロの技が光る授業 ~教師の笑顔は子供の力の源~

教員としての最大の義務である授業の力を高めます。校内研究を軸に、研修や多様な人材活用を通して、自らの資質向上と共に、専門性の向上に努めます。また、個々の児童の実態に応じた指導を展開し、児童の学力向上に努めます。ＩＣＴも積極的に活用します。そういったことの積み重ねが、よりよい学級集団の育成、ひいては学校づくりにつながります。

3つの充実

- 個別最適化された指導の充実
- 授業の充実
- 学級経営の充実

当事者意識をもったチーム松ノ木 ~保護者・地域の笑顔は子供の力の源~

子供たちの健全育成のためには、家庭・地域との協働は不可欠。保護者・地域・C S・学校支援本部の力を最大限に生かし、地域の人材を活用した学校運営を行います。また、地域と関わる学習を展開することで、地域に生きる児童を育成します。それぞれの立場の方が当事者意識をもって協働することは、子供たちにとって、より豊かな幅の広い学習環境が整うことになります。

3つの協働

- 教職員の協働
- 保護者との協働
- C S・学校支援本部との協働